

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393400142		
法人名	社会福祉法人 十字会		
事業所名	十字園第二グループホーム		
所在地	岡山県真庭市下河内2275-2		
自己評価作成日	平成24年8月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=3393400142-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド		
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル		
訪問調査日	平成24年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた立地条件を活用し、四季折々の草花を楽しみながら広い園内を散歩したり、お花見やお正月準備など季節の行事を取り入れて、利用者の昔ながらの家庭的な生活を営めるよう工夫しています。また、広い畑を活用して、季節の野菜をつくり、作業や収穫を楽しんでいただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

県北の自然に恵まれた山里に事業所はあり、入居者は居ながらにして移りゆく季節を感じながら生活している。又、季節毎の歳時記に合わせ、ゆっくりと家庭的な生活を営めるよう支援を受けている。広い敷地内の一區画に菜園を設け、夏野菜、冬野菜の植え替えをして育て、収穫から食材としての準備をして役割を持って生活をしている。地域に溶け込んで、一般家庭に生活している高齢者と同じように「落合まちかど展覧会」に作品を出展して参加していることは、事業所として優れた点であり、アピールできる。職員も個々の入居者に合わせて、ゆっくりとした、優しい介護に徹している。秋も深まり、木々が色鮮やかに様変わりする頃、暖かいもてなしをする事業所でした。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	十字会の方針・理念を玄関掲示板に掲示している。	誰でも見やすい玄関掲示板に掲示している。自然の中で安心してその人らしく暮らせる様、毎月、管理目標を提示して努めることにより、管理者と職員は理念の共有、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの商店へ買い物に出かけたり、敷地内の利用者同士の行事を合同で企画したり、運営推進委員会の構成員には地域の民生委員の方にもお願いしたりして交流を図っている。	日常的に地域との繋がりは強く、地域の主要な行事、「落合まちかど展覧会」に貼り絵、手芸など作品を出展して参加している。高校生の吹奏楽、銭太鼓、小学生の踊りなど、ボランティアの受け入れを行い交流をしている。	幼い子供達から元気が貰えます。園児たちとの交流を今後支援されることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトとして、地域のイベント等に参加し、認知症に対する理解を深めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の取り組みや実際の行事にも一緒に参加していただいたり、取り組み状況を報告しながら、委員からの疑問や意見を聞いている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を市の担当者、理事長、民生委員、家族の参加を得て開催している。状況報告、外部評価の報告、花見会、花の苗植え、納涼祭、落合まちかど展覧会などを協議しサービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や、真庭市内のグループホームで開催している連絡会議に、毎回担当者に出席していただき、実際の取り組みをお伝えしている。	事業所の運営推進会議や、3か月に1回開催される市内のグループホームの連絡会議に市の担当者出席の下、実際の取り組みを伝え連携を築いている。市の防災研修の連絡を受け、指導を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロハンドブックを利用して正しい理解の周知徹底を図っている。また事業所内で身体拘束0推進委員会を開き勉強会を定期的に行うこととしている。	玄関の施錠はしていない。職員は身体拘束に関して正しく理解しており、ケアの現場において実践している。入居者と職員は信頼関係が築かれており、「ここが一番いい」と、安心して生活している。	帰宅願望の強い入居者に対して、本人が納得されるまで待つ介護、信頼関係を培い、時間をかけて入居者の側に立つ介護を実践されている様子。継続して支援される事を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束0推進委員会の中で虐待について事業所内で話し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用者には該当者がいないが、知識として学ぶ機会を持ちたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には文書を提示して利用料等の説明を丁寧に行い疑問点を尋ね説明している。また、改定の際などは利用者の家族に説明し、同意書をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族の代表の方にも参加いただき、意見や要望を聞く機会を設けている。また、意見箱を設置している。	運営推進会議出席時に行事の在り方など、意見や要望を聞く機会にしている。玄関には意見箱を設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	3ヶ月に1回、副主任連絡会では法人の運営に関する報告や意見交換がされている。また、法人の各種PTや委員会に事業所職員がメンバーとなり参加している。	法人の事業所ごとに一人ずつ運営に関する委員を選出してプロジェクトチームを作り、副主任連絡会に参加して、法人の運営に関する意見や提案を提出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として就業規則を設け、就職するときに説明をしている。また、人事考課を活用できるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修の情報を提供し、勤務年数に照らし研修を受ける機会を確保したり、OJTを活用して研修報告会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外の研修等を通じて交流を図っている。真庭市内のグループホーム連絡会を3ヶ月に1回開催し、意見交換や情報交換、研修を行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初期は特に不安が大きいため、職員もしくは管理者がゆっくり時間をとって話を聞き、安心できる対応に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や契約時に家族と面談し、不安なことや要望等をお聞きし、入居後もこまめに電話連絡等を行い、不安や要望を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の習慣や家族が行われていた支援方法をもとに対応を検討し、できるだけ本人の環境を変えないように配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る家事(掃除・調理・洗濯干し・洗濯たたみ等)や本人の好みの作業を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話などで、家族にこまめに利用者の様子を伝え、家族に意見を求めながら対応を相談している。また外出や外泊など気軽にさせていただけるようお話している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住んでいた近所の方や友人、以前利用されていた同敷地内のサービス事業所の友人が来られた時、ゆっくり会話していただき、また気軽に来ていただける雰囲気作りに努めている。	通所利用の方やケアハウスに入居中の方との交流の援助をして、馴染みの関係継続の支援をしている。正月、お盆の帰省を快く受け入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志で仲良く会話をしている時は邪魔をしないように見守りをする。また好みの趣味活動が一緒にできるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に長期入院になったり、施設入所になっても必要に応じて相談や支援ができることを契約時にも説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と会話している時、さりげなく生活のこだわり等の聞き取りをしている。また、入居時には家族に「情報シート」の記入をお願いし、本人の希望を情報収集している。	入居者の表れている行動を理解し、本人が納得できるまで待つ介護をしている。寄り添う介護をし、会話、行動を通して思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族に「人生歴申告表」の記入を協力いただいたり、在宅での担当ケアマネから情報提供をお願いして、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人が好みの事や出来ることを把握し、自信の持てる生活ができるように、状態変化に注意し、随時アセスメントを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態変化時には職員間で速やかに生活目標を見直す話し合いの場を設けている。家族とは面会時、相談したり希望を聞いたりして介護計画に反映するようにしている。	6か月に1回モニタリングを行い介護計画の見直しをしている。状態の変化時、個別ケアの記録や介護日誌の記録により、又家族の面会時に話し合っ課題を捉え、介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録や介護員日誌を毎日記録し職員間で情報を共有し、統一したケアの実施や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や本人からの要望を聞き、できないと決め付けずに個々にあった支援ができるよう取り組めるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居後も家族や地域とのつながりを維持し、ご協力いただける範囲で家族の面会や外出外泊、友人との交流、地域の人との行事、慰問受入、敷地内の事業所との合同行事など取り入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医を希望される方は、家族の協力で受診されている。また、協力医と連携し緊急時には医師に相談し、指示を仰いでいる。	家族の協力の下、かかりつけ医を希望される入居者は受診に行けるよう支援している。毎週、協力医が往診し、個々の状態の把握と指示を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内には看護職員がいないので、併設の特養の看護職員に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から利用者の健康状態の変化がある時は、相談し協力医との連携を深めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、医療的管理の必要な方は、事業所でできることと家族に協力いただくことを説明し納得いただいている。また重度化した場合などの対応なども説明し了解いただいている。	現在、看取りはしていない。入居時に重度化や終末期について、事業所で出来ることを説明し同意を得ている。終末期は協力医の指示の下、同法人の特養に移動するか、病院へ搬送する支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置の仕方や、救急法について職場外の研修や施設内のOJTに参加する機会を作っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体の防災訓練を年2回実施している。地元の消防団の協力を得て参加してもらっている。ホーム内では毎月1回防災研修を行っている。	年2回、防災訓練を利用者、地域の方と共に実施している。地元の消防団からは年1回、消防署の方からは年2回、防災指導を受けている。事業所では毎月1回、防災研修を行っている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々を尊重した介護に努めている。入浴時や排泄時には特にプライバシー保護に配慮し、失禁があっても、本人が傷つかないように、さりげなく速やかに対処している。	職員は全員、入居者に対して敬う気持ちを持っている。親しい関係を保ち、本人の希望に耳を傾けて自己決定できる様支援している。風呂場にはカーテンを設け、見えない様配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好みの洋服や趣味活動等、本人の希望を聞いて自己決定ができるよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの日課を決めずに、一人ひとりの意志を尊重してその日の体調や気分に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月2回の施設内での散髪日を利用して、カットしてもらっている。家族の協力で行きつけの美容院に行かれたり、化粧なども自由にしていただく。季節に合った服や気に入ったものが着られるように衣類の整理を一緒にする。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に料理を作っている。それぞれに得意な分野を受け持ち、自信を持って楽しく作業できるように働きかけている。	菜園で職員と一緒に作った野菜を漬け物にしたり、食材として料理して楽しんでいる。栗、柿(剥いて吊るし柿にする)など、季節の物を味わい楽しめよう支援している。テーブルの配席は性格などを考慮し、平穏な生活が得られるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士がたてた献立にそって調理している。利用者の体調に応じた水分量が確保できるよう水分摂取量を把握し、勧めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけして口腔ケアをしている。できない利用者のは職員が援助している。義歯の不具合など早期発見に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しトイレでの排泄を支援している。紙パンツやパットを最低限利用し無理や無駄のないようにしている。	排泄チェック表を活用し、随時に誘導しトイレで排泄できる様支援している。トイレの場所は分かり易く表示され自立支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックをし、水分補給や運動により便秘予防している。便秘の人は主治医にも、相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否があれば拒否の原因を考え、声のかけ方を変えるなど対応を検討する。同じ職員が入浴の準備から終わりまで関わっている。	入浴時間は融通性を持たせていて、入浴拒否があればタイミングを変えたり、声掛けを工夫して対応している。季節になれば菖蒲湯、柚子湯などで入浴が楽しめる様工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜の入眠時間は個々に違い、習慣や状況に応じて対応している。また、個々の体調に応じて日中の活動量や休息時間を調整し夜は良く休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が服薬内容を理解した上で支援している。臨時の薬などはその後の状態変化に注意し職員間で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの経験を生かし、食事作りや片付け・掃除・洗濯干しやたたみ等を役割として、「役に立っている」と思えるような働きかけをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外への散歩や近くの商店への買い物は援助出来ている。自宅への帰省や外出はご家族に協力してもらっている。	事業所周辺は桜並木となつing上、所どころに季節の花々が植えられている為、散歩が楽しめる。事業所の裏手には広い菜園が用意されていて、季節の野菜の植え替えをしている。近くの商店に買い物ができるよう支援している。	ショッピングセンターなど、大型商業施設への買い物の支援を計画されているようです。実現されることを期待します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで、返って不安になる方がおられるので小銭程度しか所持していただいていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をかける方はおられないが、希望があれば職員が介助して電話をかける援助をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生けたり、利用者の作品等を飾り会話が自然に出来るようにしている。窓から見える景色は季節の変わりを感じる事ができる。	共用空間の居間の窓越しに見える景色は、季節の移り変わりが観て取れ、居心地良く過ごせる。野草花や花を花瓶に挿したり、入居者の作品を飾って彩を添えている。椅子用の炬燵を取り入れ入居者が利用し易い様工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを楽しみたい人はテレビの近くでくつろいで見られるように椅子を準備している。同じ趣味を一緒にしたい人にはスペースを用意して利用者同志で楽しめるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に使い慣れた家具(たんす・椅子)や家族の写真を飾り、自分の部屋とわかるようにしている。	居室には大切に使われていた箆笥、藤椅子、仏壇などが使い易い様に配置されている。写真などを飾り、安心して生活できるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「洗面所」や「トイレ」等の場所はわかりやすく手作りの表示を掛けて、できるだけ一人で移動し我が家のように生活してもらっている。また、共用スペースには障害物をなくし、移動しやすくしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393400142		
法人名	社会福祉法人 十字会		
事業所名	十字園第二グループホーム		
所在地	岡山県真庭市下河内2275-2		
自己評価作成日	平成24年8月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=3393400142-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド		
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル		
訪問調査日	平成24年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた立地条件を活用し、四季折々の草花を楽しみながら広い園内を散歩したり、お花見やお正月準備など季節の行事を取り入れて、利用者の昔ながらの家庭的な生活を営めるよう工夫しています。また、広い畑を活用して、季節の野菜をつくり、作業や収穫を楽しんでいただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	十字会の方針・理念を玄関掲示板に掲示している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの商店へ買い物に出かけたり、敷地内の利用者同士の行事を合同で企画したり、運営推進委員会の構成員には地域の民生委員の方にもお願いしたりして交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトとして、地域のイベント等に参加し、認知症に対する理解を深めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の取り組みや実際の行事にも一緒に参加していただいたり、取り組み状況を報告しながら、委員からの疑問や意見を聞いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や、真庭市内のグループホームで開催している連絡会議に、毎回担当者に出席していただき、実際の取り組みをお伝えしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロハンドブックを利用して正しい理解の周知徹底を図っている。また事業所内で身体拘束0推進委員会を開き勉強会を定期的に行うこととしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束0推進委員会の中で虐待について事業所内で話し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用者には該当者がいないが、知識として学ぶ機会を持ちたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には文書を提示して利用料等の説明を丁寧に行い疑問点を尋ね説明している。また、改定の際などは利用者の家族に説明し、同意書をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族の代表の方にも参加いただき、意見や要望を聞く機会を設けている。また、意見箱を設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	3ヶ月に1回、副主任連絡会では法人の運営に関する報告や意見交換がされている。また、法人の各種PTや委員会に事業所職員がメンバーとなり参加している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として就業規則を設け、就職するときに説明をしている。また、人事考課を活用できるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修の情報を提供し、勤務年数に照らし研修を受ける機会を確保したり、OJTを活用して研修報告会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外の研修等を通じて交流を図っている。真庭市内のグループホーム連絡会を3ヶ月に1回開催し、意見交換や情報交換、研修を行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初期は特に不安が大きいため、職員もしくは管理者がゆっくり時間をとって話を聞き、安心できる対応に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や契約時に家族と面談し、不安なことや要望等をお聞きし、入居後もこまめに電話連絡等を行い、不安や要望を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の習慣や家族が行われていた支援方法をもとに対応を検討し、できるだけ本人の環境を変えないように配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る家事(掃除・調理・洗濯干し・洗濯たたみ等)や本人の好みの作業を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話などで、家族にこまめに利用者の様子を伝え、家族に意見を求めながら対応を相談している。また外出や外泊など気軽にさせていただけるようお話している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住んでいた近所の方や友人、以前利用されていた同敷地内のサービス事業所の友人が来られた時、ゆっくり会話していただき、また気軽に来ていただける雰囲気作りに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志で仲良く会話をしている時は邪魔をしないように見守りをする。また好みの趣味活動が一緒にできるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に長期入院になったり、施設入所になっても必要に応じて相談や支援ができることを契約時にも説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と会話している時、さりげなく生活のこだわり等の聞き取りをしている。また、入居時には家族に「情報シート」の記入をお願いし、本人の希望を情報収集している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族に「人生歴申告表」の記入を協力いただいたり、在宅での担当ケアマネから情報提供をお願いして、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人が好みの事や出来ることを把握し、自信の持てる生活ができるように、状態変化に注意し、随時アセスメントを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態変化時には職員間で速やかに生活目標を見直す話し合いの場を設けている。家族とは面会時、相談したり希望を聞いたりして介護計画に反映するようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録や介護員日誌を毎日記録し職員間で情報を共有し、統一したケアの実施や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や本人からの要望を聞き、できないと決め付けずに個々にあった支援ができるよう取り組めるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居後も家族や地域とのつながりを維持し、ご協力いただける範囲で家族の面会や外出外泊、友人との交流、地域の人との行事、慰問受入、敷地内の事業所との合同行事など取り入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医を希望される方は、家族の協力で受診されている。また、協力医と連携し緊急時には医師に相談し、指示を仰いでいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内には看護職員がいないので、併設の特養の看護職員に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から利用者の健康状態の変化がある時は、相談し協力医との連携を深めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、医療的管理の必要な方は、事業所でできることと家族に協力いただくことを説明し納得いただいている。また重度化した場合などの対応なども説明し了解いただいている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置の仕方や、救急法について職場外の研修や施設内のOJTに参加する機会を作っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体の防災訓練を年2回実施している。地元の消防団の協力を得て参加してもらっている。ホーム内では毎月1回防災研修を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々を尊重した介護に努めている。入浴時や排泄時には特にプライバシー保護に配慮し、失禁があっても、本人が傷つかないように、さりげなく速やかに対処している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好みの洋服や趣味活動等、本人の希望を聞いて自己決定ができるよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの日課を決めずに、一人ひとりの意志を尊重してその日の体調や気分に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月2回の施設内での散髪日を利用して、カットしてもらっている。家族の協力で行きつけの美容院に行かれたり、化粧なども自由にさせていただく。季節に合った服や気に入ったものが着られるように衣類の整理を一緒にする。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に料理を作っている。それぞれに得意な分野を受け持ち、自信を持って楽しく作業できるように働きかけている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士がたてた献立にそって調理している。利用者の体調に応じた水分量が確保できるよう水分摂取量を把握し、勤めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけして口腔ケアをしている。できない利用者のは職員が援助している。義歯の不具合など早期発見に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しトイレでの排泄を支援している。紙パンツやパットを最低限利用し無理や無駄のないようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックをし、水分補給や運動により便秘予防している。便秘の人は主治医にも、相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否があれば拒否の原因を考え、声のかけ方を変えるなど対応を検討する。同じ職員が入浴の準備から終わりまで関わっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜の入眠時間は個々に違い、習慣や状況に応じて対応している。また、個々の体調に応じて日中の活動量や休息時間を調整し夜は良く休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が服薬内容を理解した上で支援している。臨時の薬などはその後の状態変化に注意し職員間で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの経験を生かし、食事作りや片付け・掃除・洗濯干しやたたみ等を役割として、「役に立っている」と思えるような働きかけをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外への散歩や近くの商店への買い物は援助出来ている。自宅への帰省や外出はご家族に協力してもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで、返って不安になる方がおられるので小銭程度しか所持していただいていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をかける方はおられないが、希望があれば職員が介助して電話をかける援助をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生けたり、利用者の作品等を飾り会話が自然に出来るようにしている。窓から見える景色は季節の変わりを感じることができる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを楽しみたい人はテレビの近くでくつろいで見られるように椅子を準備している。同じ趣味を一緒にしたい人にはスペースを用意して利用者同志で楽しめるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に使い慣れた家具(たんす・椅子)や家族の写真を飾り、自分の部屋とわかるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「洗面所」や「トイレ」等の場所はわかりやすく手作りの表示を掛けて、できるだけ一人で移動し我が家のように生活してもらっている。また、共用スペースには障害物をなくし、移動しやすくしている。		